

節分会

せ
つ
ぶ
ん
え



2月2日 15時より節分会法要を執行いたします。
堂内を一周後神楽殿に移動し豆を撒きます。
また参道では無料でお神酒が配られますので是非ご参加ください。
※お車でのお越しはお控えください。

【寺務所にて受付中】
節分札(一組) 500円
福豆 一合枰 500円
一升枰 3000円
(本堂にて頒布。売れ切れ次第終了)



待乳山聖天

いちよう

「言問橋」



つじうら

はしうら 橋占いをご存知でしょうか。夕暮れ人の顔の区別がつかなくなる
誰そ彼 たそがれ時に、たまたま通りかかった人がつぶやく「まだ少し時間がかかる」とか「西にむかえ」といった偶然聞こえた会話の内容を神仏のお言葉として占う事です。そもそも“橋”とは“端”であり、神仏の世界とを結ぶ場所と考えられて

いました。同様に交差点で占う「辻占」などもあります。この占いは万葉集にも書かれていて、大変古くから行われていたようです。

浅草駅から待乳山へ向かう途中に、隅田川に架かる言問橋があります。この「言を問う」という名前から、てっきり私は橋占いをした場所だと思っていました。しかしご存じのようありわらのなりひらに在原業平が隅田川の畔で詠んだほとり「名にし負はばいざこと問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと」という和歌に因んで名付けられたそうです。お恥ずかしい限りです。ところで先日宗派の研修会で、ある尼僧さんのお話を聞く機会がありました。彼女はある事件でひどい誹謗中傷を受け、一時期は死ぬことまで考えたそうです。そんな時に、住職だったお祖父さんの遺品を整理していると、ふと手にしたお経本の中にあつた最澄様ごゆいかいの『御遺誡』の一節が目にとまったそうです。うら「怨みを以て怨みに報せば、怨み止まず。徳を以て怨みに報せば、怨み即ち尽く。」この言葉を見た時に、いわれのない中傷をする人達を怨み、そんな自分の境遇を怨んでいた事に対して、亡くなったお祖父さんが導いてくれたと思えて、同時に自分と同様に悩んでいる人の助けとなる為に、出家し比叡山で厳しい修行を行う事を決意したそうです。

同様に、本当に悩み、苦しんでいる時に聖天様にお参りをして、その後ふとしたことがきっかけとなって解決することがあるとよく聞きます。それはきっと聖天様のお導きなのでしょう。時には橋占いのように、本当に些細な会話だったり、たまたま目にした看板の文字だったりします。ですから、スマホから目を上げて周りの風景を眺め、またイヤホンを外して街の音に耳を傾けても良いかもしれません。聖天様からの声、お導きが、その中に宿っているかもしれません。

本龍院執事 深谷昌広

2/20
木曜日
11:00~

よくゆこう

講金 2,000円 【寺務所にて受付中】

浴油講

・毎朝の浴油祈禱に用いる胡麻(ごま)油をお供えいたします。皆様からご志納いただく最高級の胡麻油にて尊天様をお浄めします。
・講に申し込まれた方にはお加持された食卓用胡麻油をお授け致します。是非お申し込みください。

朝まいり会

2月1日~7日 午前8時~8時半 会費:500円也
毎日お出でになれなくても1週間のうちで、ご都合のよろしい日にご参加されても結構です。

写経の会

2月9日(日) 午前10時~午後1時 会費:500円也
お経を一字一字丁寧に写すことにより仏様の功德をいただけます。

日曜勤行

2月9日(日) 午前9時 参加費無料
初心の方も気軽に参加いただけるお勤めの会です。

合同大般若法要

2月25日(火) 午前11時 法要料:5000円也
諸願成就御礼の法要として皆様とご一緒にお上げする法要です。ライブ配信も行います。そちらもどうぞご利用ください

要予約 | 坐禅の会

2月22日(土) 午前9時半~10時半 参加費:500円也
僧侶より説明を受けながら坐禅の修行を体験できます。足の悪い方は椅子での参加もできます。事前に寺務所にてご予約ください。

ライブ配信のご案内 (配信QRコード)

御縁日法要・合同大般若法要のライブ配信を行っております。



月間行事



皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。
ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。



用語

コラム

「節分という言葉」

加藤優心

ついこの前までお正月ムードだったのに気づけばすこしずつ季節が移ろって行きますね。まだまだ寒い日が続いていますが暦の上ではもうすぐ春になります。

この冬と春の間には明確に分岐点があります、それが節分です。

節分という言葉は、文字通り「季節を分ける」という意味で昔の日本では、春は一年のはじまりとされ、特に大切にされたため春が始まる立春の前の日、つまり冬と春を分ける日を一般的に節分と呼ぶようになったそうです。

節分といえば豆まきですが、なぜ鬼に豆を投げるのかというとその昔、季節の分け目には、悪いもの(邪気)が現れやすいとされていて、その「悪いもの」の象徴が「鬼」なのだそうです。見えない悪いものを鬼と呼んでいて、仏教でいう地獄の鬼と混同し、だんだんと今の姿になっていったそうです。

豆をまく理由は、悪いもの(鬼)を追い払い、良いもの(福)を呼び込むためにします。大豆は神社などで奉納される五穀のひとつで、豆は「魔(ま)を滅(め)する」、「炒り豆」をつかうのは魔をいる(射る=炒る)ためと言葉遊びから始まったそうです。また芽が出て追い出したはずの悪いものが育たないようにという意味もあるそうです。余談ですが、地域によって撒く豆に違いがあります。私の出身である千葉県では落花生を撒いていました。

ご奉納

正月を迎えるにあたりご信徒の皆様よりお供え餅をはじめとするたくさんの供物をご奉納いただきました。多くの御奉納をいただきありがとうございました。

参道入り口にある提灯一對をご奉納賜りました。ありがとうございました。

松本欣也様



《ご報告》

「お正月」

0時の開堂の鐘とともに新年を迎えました。多くの参拝者が初詣にお越しになられ堂内は大変な賑わいを見せておりました。また正月特別祈禱が三日の間厳修され、多くの方の開運招福を祈願申し上げます。

「星祭り」

12月 21日星祭法要を執行いたしました。例年より暖かい気温の中多くのご信徒様ご参加のもと来年の除災延命をご祈念いたしました。



「大根まつり」

1月 7日大般若講大根まつりが執行されました。午前 11時から法要の後 2,000食の風呂吹き大根が無料で振舞われ境内は大いに活気づいておりました。また神楽殿では日本舞踊五代流派のひとつである西川流の西川扇藏様による奉納演舞が行われ、その素晴らしい演舞に参拝の皆様も足を止め感動されている様子でした。



天台宗北総仏教青年会の皆様が 団参に見えました

12月 12日北総教区の若手僧侶で構成されている北総仏教青年会の皆様が研修のためご来院されました。住職により当院の由緒の説明を受け熱心に耳を傾けておられました。



お宮参



12月26日 増田百玖さん

七五三



12月12日 松下麦さん(3歳)

ご宝前にて無病息災を祈念し、行者よりお加持を授かりました。皆様の健やかなご成長をお祈り申し上げます。

訃報

当山の元世話人である大野まさ子様が永眠されました。謹んでお悔やみ申し上げます。享年 98 歳

ご祈禱のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力がより一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。当山ではこの浴油祈禱を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈禱期間をお伝え下さい。またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

祈禱料

別座祈禱 壱万二千元(一週間)
浴油祈禱 四千元(一週間)
華水供 六百元(一日)

法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。
百味供養 法要料 八万円
沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。
大般若法要 法要料 五万円
所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。
自動車加持 法要料 壱万円
当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

